

2013年3月26日

株式会社ネクス

農業 ICT 商品化に向けた新規事業への参入について

株式会社ネクス（本社：岩手県花巻市、代表取締役社長：秋山 司）は、当社の中核となるデバイス事業で培った通信技術ノウハウを活用し新農法および農業設備、それぞれのテクノロジーを融合した農業 ICT 商品化の実現に向けて新規事業への参入を開始します。

【事業参入の趣旨】

当社の中核となるデバイス事業がターゲットとする情報通信市場において、M2M分野は急速な市場拡大が見込まれおります。M2Mとは「Machine to Machine」の略語で機器相互間のコミュニケーション技術のことを指し、市場規模は2012年度は約1,300億円ですが、2017年度には約8,700億円へと成長するとの試算があるなど、昨今で非常に関心が高まっている分野です。

当社は、これまでもM2M端末製品を成長分野の1つと掲げ取り扱っておりますが、培ってきた通信技術資産を生かして更なるM2M分野への参入拡大を目指し、かつその資産を異業種と融合させることで、デバイス事業のドメイン拡大を進めてまいります。その具体的なモデルケースの一つとして、農業事業をスタートさせ、当社通信事業の応用による農業 ICT 化の実現に向けて取り組むこととしました。

【ビニールハウスの様子】



【事業開始の背景】

岩手県花巻市にある花巻本社は広大な遊休地を有しております。この遊休地を利用してビニールハウスを建設し、農業を開始、また効率的な人員配置により花巻本社従業員による栽培、収穫を行うことで初期投資、人件費等の抑制をしながら、その上で気温、湿度、土壌温度、土壌水分等の環境データと育成状況を関連づけ、収量を推定したり、データを用いて作物の品質を高めるなど、誰でも安定して美味しい農作物が作れる仕組み作りを行います。

当社は今後も地域への貢献を目指し、製造業でありながら地産地消を実現できる農業ICT化の実現、更には雇用の促進に向けた取り組みを進めます。

【環境データを集積】



【事業の展開予定】

2012年10月よりビニールハウス設備を構築、同年11月より、新農法による定植栽培でミニトマト、中玉トマト、ピーマン、なすの栽培を開始しております。2013年2月より収穫、地元の販売店等に出荷を開始しており2013年度内には収穫から出荷までの一連のモデルケースを確立することと、デジタル技術を農業に応用し試験と改善を繰り返すことで、より実用的な生産者向けの栽培技術が提供できる農業ICTの商品化を目指します。

さらに、新鮮で美味しい当社の野菜を、全国の皆様にも味わって頂く為に、2012年7月17日付けで新たに連結子会社となったイー・旅ネットグループが所持するウェブマーケティングノウハウを活用し、独自のホームページ「ネクスファーム (NCXX FARM)」を立ち上げ、岩手から全国へ情報の発信を行ってだけでなく、オンラインショップによる通信販売に関しても取り組みを開始しました。

【ホームページ NCXX FARM】

ホームページ「NCXX FARM」
<http://farm.ncxx.co.jp/>

運用開始日 2013年3月26日



【農法について】

当社が行う農法は、多段式ポット栽培（特許登録済み（開発者：東 宏文））を採用しています。健全な土壌を使用し、農薬を使わず、作物ごとに最小限必要な栄養を最適な配分で配合した用土をポットに用いて、野菜の成長に合わせて段階的に栄養配分の異なるポットを重ねていくことで、作物の成長に合わせた適切なタイミングで最適な栄養を与えることにより、作物の自然な生命力を最大限に引き出すことができ、無農薬、および「硝酸態窒素」の含有量が適正な、安心・安全・新鮮な「低硝酸野菜」が育成できます。

また、1ポットに3～6株の定植をすることで（ミニトマト等の場合）慣行農法に比べ単位面積当たりの収穫量を大幅に増加させることができます。さらに従来の慣行農法とは異なり、畑を必要としないポットでの栽培になりますので、作付け前に土を耕したり、雑草の手入れ、こまめな追肥、土壌成分の管理と言った作業が不要となるだけでなく、連作障害といった心配もない、安全で効率の良い運営が可能となります。

【成長の様子】



【ビニールハウス内部の多段式ポット】



【収穫された新鮮野菜】



【ホームページ NCXXFARM で販売中】



<本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先>

◆株式会社ネクス 経営企画部 TEL：03-5766-9870

以 上